

会議議事摘録

会議名	平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	平成 29 年 7 月 1 日 (土曜日) 10:00~12:00 (2.0h)
場所	本校 4 階 404 教室
出席者 (敬称略)	①委員：伊藤雄子 (保護者)、佐藤文雄(高等学校関係者)、藤井昌弘(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者) (計 5 名) ②学校：橋本正樹 (校長)、宮下明久 (事務局長)、前田律子 (看護科担当副校長・学科長)、小田真理子 (速記コンピュータ科学科長)、吉川 香 (医療秘書科学科長)、村山由美 (医療秘書科副学科長) 黒田 潔 (医療マネジメント科学科長)、菊池聖一(診療情報管理専攻科長・医師事務技術専攻科長)、中村博臣 (くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子 (介護福祉科学科長)、宮嶋貴与 (鍼灸医療科学科長)、三宅かおり (教務委員長) (計 12 名) ③事務局：川内靖美、高橋 稔 (計 2 名) (参加者合計 19 名)
欠席者	野間 弘(卒業生)
配付資料	①事前送付： □資料 1：平成 29 年度学校関係者評価委員会名簿、□資料 2：平成 28 年度第 3 回学校関係者評価委員会議事録、□資料 3：平成 28 年度活動の自己評価報告書 (点検大項目)、□資料 4：平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方、□資料 5：平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法、□資料 6：平成 29 年度教員研修計画・実績 ②当日配付： □資料 7：平成 28 年度第 3 回委員会以降の主な経過報告 (別添 A：平成 29 年度校務分掌、別添 B：平成 29 年度学事日程、別添 C：平成 29 年度オープンキャンパス日程、別添 D：平成 29 年度クラス担任一覧、別添 E：AO 入試入学者の入学前指導プログラム、別添 F：平成 28 年度進路決定状況、求人件数、別添 G：平成 29 年度 W S C P の年間計画例 (医療秘書科)、別添 H：平成 29 年度前期授業アンケート実施計画、別添 I：平成 29 年度授業公開実施要領、別添 J：平成 29 年度医療事務分野・福祉分野教育課程編成委員会名簿) ③当日配付印刷物： □平成 29 年度学生生活ガイド (看護科以外、看護科)、□平成 29 年度講義要項 (全学科)、□2017Challenge 就職活動ノート、□平成 30 年度入学案内書、□平成 30 年度募集要項、□平成 30 年度本校コンセプトノート
回覧資料	□資料 1：平成 28 年度活動の自己点検・自己評価報告書 (点検中項目)、□資料 2：平成 29 年度の各学科運営計画、□資料 3：平成 29 年度の授業公開リスト
議題等	1. 今年度委員の確認及び本日出席の新任者紹介 (説明者：事務局高橋) 事務局より、本委員会は平成 25 年度に設置され、委員の任期は 2 年であり今年度で 3 期目となる、保護者委員を除いては平成 28 年度第 3 回委員会において再任をお願いし、

既に就任承諾の手続きも終了しているが、保護者委員については、お子様の卒業で交代となることから、第3期（平成29～30年度）は新たに伊藤雄子様（お子様が二人在学）にお願いし、就任手続きが終了していることについて報告の後、資料1に基づき今年度の委員の確認と紹介が行われた。

伊藤委員より「よろしくお願ひします」とのご挨拶があった。

次に、平成29年4月の異動により吉川医療秘書科学科長が新任、また菊池診療情報管理専攻科長が新設の医師事務技術専攻科長を兼任すること、委員会事務局が学務課の川内に交代したことについて報告が行われた。

2. 校長挨拶

橋本校長より、本年度は平成30年度以降の18歳人口急減期に向けた学科再編計画に基づくスタートの年となる。速記符号教育を中心とした2年制の専門課程、速記コンピュータ科の募集を停止し、一方で医療事務の仕事の高度化に対応する新たな1年制の専攻科、医師事務技術専攻科を開設した。また、聴覚障害者への情報保障の一環として総務省が推進しているテレビの字幕制作を含む、時代に即した新たな速記者養成教育を行うため、関連業界と連携した1年制の字幕制作・速記者養成科を平成30年度から開設する準備に入っている。

介護福祉科については、出入国管理法の改正により介護福祉士が外国人の在留資格として認められたことを受け、留学生の受け入れ拡大に向けて日本語学校、介護福祉施設との連携を具体的に進めている。看護科は、3年目の完成年度を迎えた。医療と福祉の専門学校として学科間の連携をさらに強化し、他校との差別化を図りたい。さらに、平成31年度に開設される専門職大学の動向もにらみながら、教育の可視化、質保証という観点から効果的な情報公開を行い、2-40プロジェクトに示した選ばれる学校、プレステージスクールを目指す所存である。

学校関係者評価委員会は、本日を含めて合計3回を予定しているが、委員の皆様には引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見をいただきたい。本年度もよろしくお願ひしますとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局高橋）

事務局より本委員会の議事録の作成方法について説明が行われた後、保坂委員長より、前回議事録（資料2）について訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 経過報告（説明者：宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋）

平成28年度第3回委員会以降の主な経過について、各担当より資料6と資料7に基づき報告が行われ、確認、了承された。なお、委員より就職活動の状況とAO入試の入学前指導プログラムについて質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 28 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（説明者：事務局高橋）
事務局より資料 3 の構成及び表タイトルの「現状の取組状況・総括」「課題」「今後の改善方策」の記述方法、記述経過について説明が行われた後、基準の項目順に質疑応答が行われ、確認、了承された。なお、委員より基準 1：教育理念・目的・育成人材像、基準 2：学校運営、基準 3：教育活動、基準 4：学習成果、基準 5：学生支援について質問と意見があり、担当よりそれぞれ説明が行われた。詳細は別紙のとおり。

6. 平成 28 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組・改善の進め方について（説明者：事務局高橋）

事務局より資料 4 の構成及び表タイトルの「意見・課題への取組・改善の進め方※ 1」「現状・進捗状況※ 2」の記述経過について説明が行われた。

保坂委員長より、このテーマは次回委員会で「中間点検報告」、第 3 回委員会で「年度末点検報告」が行われることから、本日は資料 4 の不明点等の確認にとどめたい旨の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 平成 29 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

橋本校長より、資料 5 に基づき、今年度の 3 つの重点目標（①TPC の育成と強化、②退学防止、③教員研修）について説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他

事務局より、第 2 回委員会は 11 月に開催を予定しており、9 月に日程調整を行った上で案内をすること、次回テーマは以下の通りとの事務連絡が行われた。

- ・平成 28 年度委員会報告に示された課題への取り組み進捗報告
- ・平成 29 年度重点目標の中間点検報告
- ・平成 29 年度の学校関係者評価報告のまとめ

最後に、保坂委員長より、AO 入試の入学前指導プログラムや授業公開、授業アンケートなど、着実に改善がなされていることを感じる。今日の意見の中では、自己分析、個人分析が重要なアピールツールになることや卒業生支援への取り組みなどがポイントになっていた。情報の共有という話もあったが、よい事例を共有することが学校全体がよくなることにつながるので、そのような取り組みをしてほしいとのまとめの後、次回への協力依頼が行われ、閉会した。

以上

平成 29 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

4. 経過報告

○平成 28 年度第 3 回委員会以降の経過について宮下事務局長、三宅教務委員長、事務局高橋より資料 6 及び資料 7（別添 A～J）に基づき、以下の報告が行われた。

1. 平成 29 年度の組織運営関連

- ・平成 29 年度校務分掌（別添 A）
- ・平成 29 年度学事日程（別添 B）
- ・平成 29 年オープンキャンパス日程（別添 C）
- ・平成 29 年度クラス担任一覧（別添 D）

2. 自己点検・自己評価関連

(1) 実施日程と実施内容

日程	実施内容
4 月	4/27 4 月自己点検委員会 ・平成 28 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）確認（回覧資料 1） ・平成 28 年度学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題の進め方記述
5 月	5/30 5 月自己点検委員会 (1)平成 28 年度活動の自己評価報告書（点検大項目）（資料 3） (2)平成 28 年学校関係者評価委員会報告に示された意見・課題の進め方進捗（資料 4） (3)平成 29 年度重点目標と達成するための計画・方法提示（資料 5）
6 月	6/1～(1)の最終整理、確定、(2)の進捗記述、整理 6/29 6 月自己点検委員会 ・(1)(2)(3)の学校関係者評価委員会への報告、説明準備

3. 各学科の運営計画関連

- ・各学科、専攻科は、平成 29 年度の学科運営計画により教育活動と学科運営を行っている。（回覧資料 2）

4. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 28 年度の重点目標として、年間の退学率 3.5%以下を引き続き設定して退学防止に取り組んだ。
- ・指導、支援に必要な情報を共有して退学防止に役立てるために、個人情報削除した上で「退学者・学籍異動の記録」と「退学防止の事例記録」を学内ネットに掲載して役立てている。
- ・平成 29 年度も引き続き数値目標を重点目標に掲げて取り組んでいる。（資料 3、資料 4）
- ・その一環で、AO入試による入学予定者に対する入学前指導プログラムにも取り組んでいる。（別添 E）

(2) 就職活動の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・平成 28 年度進路決定状況、求人件数。（別添 F）
- ・平成 29 年度 W S C P の年間計画・医療事務系学科の例。（別添 G）

5. 授業アンケート関連

(1) 平成29年度前期実施計画（別添H）

- ・ 3年ごとの定期改訂で実施方法と質問項目の一部変更を行った。
- ・ 実施時期 6月26日(月)～30日(金) ※実習等の関係から一部の学科は翌週実施。
- ・ 実施方法 配付・回収を担当教員からクラス委員に変更。
単純平均値と自由記述の翌週速報。
結果へのコメント記述（前期はトライアルとして自己点検委員会内で実施）。
- ・ 質問項目 平成29年度改訂アンケート用紙。

6. 教員研修関連

(1) 平成29年度実施計画・実績（資料6）

- ・ 職業実践専門課程の認定要件に基づく研修及び教務委員会主催の外部講師招聘研修。
- ・ 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するために実施するもの。
- ・ 授業及び学生に対する指導力等を修得・向上するために実施するもの。

(2) 平成29年度授業公開（別添I、回覧資料3）

- ・ 実施期間 6月26日(月)～7月7日(金)。
- ・ 公開者 常勤教員と参加協力を得た兼任講師。
- ・ 参観者 常勤教員、事務職員と参加協力を得た兼任講師。

7. 職業実践専門課程関連

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
認定学科	平成25年度：医療秘書科、医療マネジメント科 (診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科)	平成28年度：介護福祉科
平成29年度委員構成	外部委員：4名（1名新任、3名再任） 本校委員：校長、学科長3名、副学科長1名、教務委員長、教科系リーダー、事務局長（別添J）	外部委員：2名（9月再任予定） 本校委員：校長、学科長、学科教員1名、事務局長、広報室長（別添J）
第1回	・ 7/20（木）10:00～12:00 ・ 外部委員3名出席予定	・ 7/19（水）13:00～15:00 ・ 外部委員2名出席予定
テーマ	1. 委員会における意見、提案への取組（活用）報告 2. 平成29年度の教育活動と学科運営について 3. 平成30年度カリキュラム編成について	

○AO入試による入学予定者に対する入学前指導プログラムについては、三宅教務委員長より以下の補足が行われた。

- ・ 第1回課題の作文については、文字数を増やし、よく考えて取り組んでもらう内容とした。ただし今年度募集は間に合わないため平成31年度募集から適用する。第2回課題は現状どおり学科ごとに設定し、第3回課題はスクーリングとした。
- ・ スクーリングはIとIIの2部構成とし、Iは授業体験及びそれに関するレポートの作成、IIは、入学してからの友達づくりの機会として、親睦会を兼ねた形式とすることを検討中である。
- ・ 将来的には、全ての入学予定者に対して入学前指導プログラムを実施し、入学前から卒業まで目標を見失わず、主体的に学生生活を送れるような支援を考えていきたい。

○就職活動の状況については、宮下事務局長より以下の補足が行われた。

・全体の内定率は前年より1%改善している。学科別で介護福祉科の内定状況が低いのは、Bクラス（職業訓練生）が低いのが要因である。

・「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュールは、医療秘書科1年次の指導プログラムを例示として添付した。1年生の入学直後から指導が始まり、2年生になると実際の就職試験対策、面接試験対策が中心となる。

○授業アンケートについては、事務局高橋より以下の補足が行われた。

・今年度は授業アンケートの定期改訂年度に当たることから、以下の改訂会を行った。

①アンケートの配布・回収を授業科目担当教員が行う形式から、前回改訂までのクラス委員が行う形に戻した。

②アンケート実施の翌週の授業日までに単純平均値と自由記述を出席簿に挟んで担当教員に報告し、後半の授業に役立てていただく形にした。

③質問項目は、一つの質問の中に二つの要素が入っているところを分けたほか、自由記述を3項目から2項目に減らした。

④アンケート結果に対して教員がコメントしてはどうかとの本委員会からの意見については、前期は自己点検・自己評価委員会におけるトライアルとして、学科長が自分のアンケート結果に対してコメントを記述して校長に提出する形式で実施する。

○教員研修については、三宅教務委員長より以下の補足が行われた。

・教務委員会が主催する第1回研修は、8月3日、プレゼンテーション実践研修を行う。25名ずつ二つに分けて、午前・午後3時間ずつ演習をしてもらう。

・授業公開は、昨年度と同様に教務委員会が所管し、授業公開実施要領を定めて6月26日（月曜日）から7月7日（金曜日）までの2週間で実施している。

・本年度は兼任講師が5名参加している。プロの先生の講義を聞くことは大変勉強になるので今後広がってほしいと思っている。結果については次回報告する。

○委員からの質問、意見と回答は次のとおり。

(1) 就職活動の状況について

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>介護福祉科 B クラスの就職状況が悪いとの説明があったが、クラスによって授業内容や就職の斡旋方法などに違いはあるのか。</p> <p><input type="checkbox"/>B クラスの訓練生は主にハローワークで就職の斡旋をするのか、それとも、専門学校への求人に応募することができるのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>A クラスは高校新卒者が中心で、B クラスは離職者訓練ということで年齢層的にも比較的高い方が多い。</p> <p><input type="checkbox"/>就職の指導や学習内容に差はない。主に就職に対する意識の違いが就職率の差になって現れていると思う。</p> <p><input type="checkbox"/>訓練生は、入学時は介護を目指して入ってくるが、在学中に介護の厳しさを感じて、介護職に就かないケースが多くなっているのが現状である。</p>
<p><input type="checkbox"/>内定者が最初の就職先でどれくらい定着しているかというデータをとったことがあるか。</p>	<p><input type="checkbox"/>全体的にアンケートをとったことはないが、キャリアサポートセンターでメールを利用した調査を予定している。</p>
<p><input type="checkbox"/>医療事務も介護福祉士も仕事が厳しくて離職率が高いと言われているが、本校の卒業生の実態は</p>	<p><input type="checkbox"/>続いている学生は10年、20年と長く勤めて、役職についている者もいる。一方で数カ月とか1年以内で</p>

<p>どうか。</p> <p><input type="checkbox"/> いろいろな病院で、最後の最後まで頑張るのは早稲田速記の学生だと言われる。それはすごく評価できる一方で、心身とも疲れ果てて転職の相談に来る卒業生もいる。それがこの学校の特徴の一つかと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> キャリアサポートプログラムは医療秘書科を例に示されたが、ほかの学科も内容は変わらないのか。</p> <p><input type="checkbox"/> この中にある自己理解、自己分析の結果を学生指導に利用しているか。</p> <p><input type="checkbox"/> 特に弱みの部分を改善するような指導をしているとよいと感じた。</p>	<p>やめている学生もいるので、具体的な数字は調査を試みないとわからない。長く正職員で続けたいという意向は強くなっていると思うので、優良な就職先の紹介に努めるという方針で取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> キャリアサポートプログラムを体系的に実施していない学科もあるので、学科ごとに指導内容は異なる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療マネジメント科は、チャレンジノートの資料に自己分析があるので、担任もその記述を参考にしながら就活支援、個別面談、キャリアサポートプログラムにおける模擬面接の指導をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> ご意見として伺った。</p>
---	---

(2) AO入試の入学前指導プログラムについて

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> AO入試の入学前指導プログラムで、スクーリングⅠとⅡの二つを1日でやるという理解でよいか。</p> <p><input type="checkbox"/> オリエンテーションを最初にやってから授業というのが流れるにはよいかと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/> 1日で、合わせて3時間ぐらいを想定している。</p> <p><input type="checkbox"/> ご意見を参考にして具体的な内容を検討したいと思う。</p>

5. 平成28年度活動の自己評価報告書(点検大項目)について

○事務局高橋より資料3の構成及び表タイトルの「現状の取組状況・総括」「課題」「今後の改善方策」の記述方法、記述経過について説明が行われた。

○保坂委員長より、資料3は事前送付されていることから、項目順の質疑応答で進める旨の説明が行われた。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

(1) 基準1：教育理念・目的・育成人材像

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 新しく開設した医師事務技術専攻科は、高校側、病院側へのPRが重要になってくる。研究会や学会などの場もうまく活用していくとよいと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/> 高い専門領域への対応能力が必要なので、東京近郊で開催される場合にはできるだけ参加するよう、早めに情報を集めて対応し活用したい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 職業実践専門課程を申請した介護福祉科においては、委員会の意見を元に授業内容の見直し図</p>	<p><input type="checkbox"/> 委員会においては、主に職員の研修、カリキュラムの話があった。また、昨年度、国家試験にあわせて内</p>

ているということだが、具体的な内容を教えてほしい。	容を変えた。今後は在宅介護等を取り入れた授業や研修を実施していく。
---------------------------	-----------------------------------

(2) 基準 2 : 学校運営

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□考課者訓練はどのぐらいの頻度でやられているのか。	□基本的には、考課をする立場になったときにやることにしている。考課は一次考課、二次考課という形で複数の目を見た後、最終的に学園全体として調整会議を行い、公平に進めている。

(3) 基準 3 : 教育活動

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□最近の国家試験の傾向を教えてください。	□看護師の国家試験は、四捨一択に加え、五捨二択の問題がふえてきた。画像診断的な問題や長文読解が含まれる状況設定問題など、1問に対して時間をかけて、的確に判断していかなければならない問題がふえてきたと思う。 □鍼灸では問題数、出題の四捨一択は変わっていない。内容的には、東洋医学的分野にも基礎医学がかなり深いレベルまで入ってきている。また、全国学校協会が推奨している教科書外からも多く出題されており、各分野が連携して、進行状況を把握しながら指導していくことが必要になってきていると思う。一つの問題から2次、3次と知識を膨らませていかないと答えられない傾向があるので、読解力が重要な課題かと思う。
□研究発表形式の授業により、自分の考えたことを人前で発表する癖づけができてくると就職にも有利になってくる。就職してからも会議の中で発表するときに役立っているとの声も聞くので、積極的に取り組むと有意義かと思う。	□鍼灸科は、1年生に他の代替医療について調べて発表させている。それは3年生の臨床報告会につなげていく導入でもある。

(4) 基準 4 : 学習成果

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□学習成果の項目が非常にシンプルな感じがする。	□学習成果の把握は、文科省の関心事項にもなっており、項目を増やす方向でいろいろ検討が行われている。 □日本の教育の仕組みの中で、学校の運営組織の評価は厳しくやっているが、学習分野別の成果についてはほとんどやられていない。その枠組みを文科省でつくっているのだから、数年のうちに専門教育の成果についても厳しい目が入ってくると思う。

	<p>□診療情報管理専攻科と医師事務技術専攻科に関しては、今年度の実習を行った後に、項目ごとに評価を入れていただき、それを解析して評価をしたいと思っている。</p>
--	--

(5) 基準5：学生支援

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>□学生相談で、医療機関への紹介が必要なケースとはどのようなものか。</p>	<p>□具体的には自傷行為等、学校の相談コーナーだけでは生命の危険があるようなケースや、精神的に落ち着かず、他の学生への影響を及ぼすような状況が見られる場合、受診を考えてもらうような提案をすることがある。</p>
<p>□校友会報は在校生にもわたっていて、保護者の目に触れる可能性はあるのか。</p>	<p>□在校生にも配付している。保護者にも見ていただいていると思う。</p>
<p>□2-40 活動への参加者をふやすために、卒業生のニーズに合致した形で内容を検討するとあるが、これは G メール等を活用して卒業生のニーズを調査し、2-40 活動の内容に反映するということか。</p> <p>□今困っている問題を解決するヒントがそこにある、セミナーに参加すると何かおまげがもらえる等々、参加者をふやす工夫があると思うので、ぜひ多くの卒業生が参加できるようにいろいろ知恵を出してもらいたい。</p>	<p>□卒業生支援講座の参加者がふえない現実を踏まえ、ニーズ調査を取り入れて内容に反映させていきたい。診療報酬の点数改訂の際に行う医療事務系学科の講座は参加者がいる程度確保できているので、引き続き継続して行っていく予定である。</p> <p>□内容、日程、時間など、なるべく参加しやすい設定をしていきたい。</p> <p>□卒業生支援講座については、今年度からは校友会と連携し、同窓会的な要素をふやし、その中に自分の仕事のスキルアップが図れるような講義等を組み入れた企画を考えている。</p> <p>□2-40 活動に絡むセミナーとは違うが、看護科では早期離職や転職を防止する観点でホームカミングデ一年に1回行っている。今年は6月25日に実施したが、35名の卒業生のうち26名が参加し、2時間ほど教員や同級生と話し合っ帰っていった。その際のアンケートからは、職場を変えたいと思っている人はかなりいるが、職を離れたいとは思っていないことが伺えた。アンケート結果はそれぞれの施設に返して、施設の教育体制の中で考えていってもらえればと思っている。</p>
<p>□保護者との連携のところでは、介護福祉科では保護者会を実施したので一歩前進した感はある。インストラクションスキルの向上を目的にした授業公開だけでなく、保護者の方に自分の子どもの勉強内容や学校の様子を見せる授業公開があっ</p>	<p>□今までも保護者の方が見えて、高校生と一緒に話を聞いたり、授業体験をしていただくことはやっているが、保護者対象の説明会は新しい試みである。学校に対する理解を深めていただき、退学防止にもつながっていくようなところを考えている。</p>

<p>もよいのではないかと思う。</p> <p>□子供が通う大学では、学生一人一人のことを細かに書いた分析書があり、保護者会や三者面談で指摘される。親としてはよく見てもらっていることで安心感がある。アピールのツールにもなるので、今後、学生の情報を集約していくこととリンクさせてみるのもよいかと思う。</p> <p>□今後、人工知能が発達していく中で、転職は当たり前前という部分も出てくると思うので、長い目で見た卒業生支援を考えていってほしい。若いころに弱みだと思っていたことが、年を取ってから強みに変わることもあるので、カウンセリング的な部分も含めた支援をしてはどうか。</p>	<p>□ご意見として伺った。</p> <p>□ご意見として伺った。</p>
---	---------------------------------------

○基準6～基準10については、特段意見はなかった。

6. 平成28年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組、改善の進め方について

- 事務局高橋より資料4の構成及び表タイトルの「意見・課題への取組・改善の進め方※1」「現状・進捗状況※2」の記述経過について説明が行われた。
- 保坂委員長より、このテーマは次回委員会で「中間点検報告」、第3回委員会で「年度末点検報告」が行われることから、本日は事前送付された資料4の不明点等の確認にとどめたい旨の説明が行われた。
- 委員からの質問、意見はなかった。

7. 平成29年度の重点目標と達成するための計画・方法について

- 橋本校長より資料5に基づき以下の説明が行われた。
 - ・新学事システムが稼働し、学生一人一人の情報の一元化、共有化の下地ができた。それを背景に、平成29年度は前年に引き続き掲げた三つの重点目標について新たな展開を考えたい。
- ①TPCの育成と強化については、学生が卒業してからも学び続けられるように、学ぶことの楽しさを実感し、自主的に学び、深めていけるようなきっかけを与える授業を意識的に仕掛けていきたい。

また、最近レジリエンス（復元力）ということが言われているが、折れない心、しなやかさを身につけて、長く職業人として第一線で活躍するための準備を在学中にできるような仕掛けを考えてやっていこうと思っている。
- ②退学防止については、AO入試で入ってくる学生に対してより目をかけていく。今年度は医療秘書科を重点学科とし、早めの面談、話しかけによりそれぞれの学習状況等の把握に努めているが、今のところ成果が出ているようである。この取り組みで出た成果を他学科に生かしていくような流れをつくり、数字の目標としては3.5%以内の退学率を目指していきたい。
- ③教員研修は参加者がふえており、学内の研修会も毎年よい研修会が行われている。授業公開は昨年度非常に大きく進展し、今年も今、前期の授業公開を実施しているが、活発な動きが出てきているので、さらに一歩進めていきたい。

○説明に対する委員からの質問、意見はなかった。

以上